

問6-2. 下記ア～クの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)
 イ 肺炎にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	500	51.8	216	80.6	157	61.6
望まない	229	23.7	34	12.7	73	28.6
わからない	178	18.4	13	4.9	20	7.8
無回答	59	6.1	5	1.9	5	2.0

どのような治療を希望するかについて、『肺炎にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること』を「望む」は国民で51.8%と半数を超えている。

老年精神医の「望む」は80.6%で、国民(51.8%)を大きく上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望む」は61.6%で、国民(51.8%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望む」は老年精神医(80.6%)に救急医(61.6%)より多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

問6-2. 下記ア～クの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)
 ウ 口から十分な水分をとれなくなった場合の点滴

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	574	59.4	184	68.7	142	55.7
望まない	196	20.3	48	17.9	80	31.4
わからない	131	13.6	26	9.7	27	10.6
無回答	65	6.7	10	3.7	6	2.4

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な水分をとれなくなった場合の点滴』を「望む」は国民で59.4%を占めている。

老年精神医の68.7%で、国民(59.4%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.059、自由度2であった。

救急医の「望む」55.7%は国民(59.4%)とあまり差がみられないが、「望まない」では救急医(31.4%)が国民(20.3%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.002、自由度2であった。

「望む」は老年精神医(68.7%)が救急医(55.7%)より多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.001、自由度2であった。

問6-2. 下記ア～クの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

エ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、太い血管に針で管を刺して栄養剤を入れること(中心静脈栄養)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	297	30.7	84	31.3	54	21.2
望まない	419	43.4	144	53.7	177	69.4
わからない	199	20.6	36	13.4	20	7.8
無回答	51	5.3	4	1.5	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、太い血管に針で管を刺して栄養剤を入れること』を「望む」は国民で30.7%、「望まない」は43.4%となっている。

老年精神医の「望まない」は53.7%で、国民(43.4%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.006、自由度2であった。

救急医の「望まない」は69.4%で、国民(43.4%)を大きく上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(53.7%)より救急医(69.4%)が多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.001、自由度2であった。

問6-2. 下記ア～クの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

オ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から管を入れて流動食を入れること(経鼻栄養)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	125	12.9	52	19.4	42	16.5
望まない	598	61.9	182	67.9	183	71.8
わからない	196	20.3	30	11.2	25	9.8
無回答	47	4.9	4	1.5	5	2.0

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から管を入れて流動食を入れること』を「望む」は国民で12.9%、「望まない」は61.9%となっている。

老年精神医の「望む」は19.4%で、国民(12.9%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望む」は16.5%で、国民(12.9%)をやや上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望む」は老年精神医(19.4%)と救急医(16.5%)に差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.565、自由度2であった。

問6-2. 下記ア〜クの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

カ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、手術で胃に穴を開けて直接管を取り付け、流動食を入れること(胃ろう)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	83	8.6	51	19.0	35	13.7
望まない	653	67.6	178	66.4	195	76.5
わからない	185	19.2	34	12.7	21	8.2
無回答	45	4.7	5	1.9	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、手術で胃に穴を開けて直接管を取り付け、流動食を入れること』を「望む」は国民で8.6%、「望まない」は67.6%となっている。

老年精神医の「望む」は19.0%で、国民(8.6%)を大きく上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望む」は13.7%で、国民(8.6%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望む」は老年精神医(19.0%)が救急医(13.7%)をやや上回っている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.038、自由度2であった。

問6-2. 下記ア〜クの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

キ 呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること(言葉を発声できなくなります)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	77	8.0	27	10.1	20	7.8
望まない	642	66.5	209	78.0	215	84.3
わからない	201	20.8	27	10.1	15	5.9
無回答	46	4.8	5	1.9	5	2.0

どのような治療を希望するかについて、『呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること』を「望む」は国民で8.0%、「望まない」は66.5%となっている。

老年精神医の「望まない」は78.0%で、国民(66.5%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望まない」は84.3%で、国民(66.5%)を大きく上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(78.0%)と救急医(84.3%)に大きな差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.121、自由度2であった。

問6-2. 下記ア〜クの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

ク 心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置(心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	147	15.2	16	6.0	5	2.0
望まない	639	66.1	230	85.8	238	93.3
わからない	134	13.9	19	7.1	8	3.1
無回答	46	4.8	3	1.1	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置』を「望む」は国民で15.2%、「望まない」は66.1%となっている。

老年精神医の「望まない」は85.8%で、国民(66.1%)を大きく上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望まない」は93.3%で、国民(66.1%)を大きく上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(85.8%)より救急医(93.3%)に多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.007、自由度2であった。

問7. もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような治療を希望しますか。

—あなたのご病状—

慢性の重い心臓病が進行して悪化し、今は食事や着替え、トイレなど身の回りのことに手助けが必要な状態です。しかし、意識や判断力は健康な時と同様に保たれています。

—医師の見解—

「回復の見込みはなく、徐々に悪化して死に至る」とのことです。

お考えに近いものを選んでください。

問7-1. どこで治療を受けたいですか。(○は1つ)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
病院	512	53.0	81	30.2	89	34.9
介護施設	236	24.4	84	31.3	45	17.6
在宅	201	20.8	98	36.6	115	45.1
無回答	17	1.8	5	1.9	6	2.4

以下のような病状になった場合、どのような治療を希望するかについて、まずは、どこで治療を受けたいかをきいたところ、国民では「病院」53.0%、「介護施設」24.4%、「在宅」20.8%の順となっている。

老年精神医では「在宅」36.6%、「介護施設」31.3%、「病院」30.2%がいずれも3割台で、順位・割合ともに国民とは大きな差がみられる。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医では「在宅」45.1%、「病院」34.9%、「介護施設」17.6%の順であり、順位・割合ともに国民とは大きな差がみられる。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

老年精神医と救急医の間でも、順位・割合ともに大きな差がみられる。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.001、自由度2であった。

問7-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)
 ア 肺炎にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	543	56.2	213	79.5	173	67.8
望まない	243	25.2	36	13.4	54	21.2
わからない	145	15.0	14	5.2	24	9.4
無回答	35	3.6	5	1.9	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『肺炎にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること』を「望む」は国民で56.2%と半数を超えている。

老年精神医の「望む」は79.5%で、国民(56.2%)を大きく上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望む」は67.8%で、国民(56.2%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.005、自由度2であった。

「望む」は老年精神医(79.5%)が救急医(67.8%)より多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.006、自由度2であった。

問7-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)
 イ 口から十分な水分をとれなくなった場合の点滴

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	568	58.8	199	74.3	154	60.4
望まない	226	23.4	46	17.2	72	28.2
わからない	133	13.8	18	6.7	25	9.8
無回答	39	4.0	5	1.9	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な水分をとれなくなった場合の点滴』を「望む」は国民で58.8%を占めている。

老年精神医の「望む」は74.3%で、国民(58.8%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望む」は60.4%で、国民(58.8%)とほとんど差はみられない。国民と救急医の間の検定はP値=0.117、自由度2であった。

「望む」は老年精神医(74.3%)が救急医(60.4%)より多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.002、自由度2であった。

問7-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

ウ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、太い血管に針で管を刺して栄養剤を入れること(中心静脈栄養)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	304	31.5	89	33.2	63	24.7
望まない	430	44.5	140	52.2	169	66.3
わからない	188	19.5	34	12.7	18	7.1
無回答	44	4.6	5	1.9	5	2.0

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、太い血管に針で管を刺して栄養剤を入れること』を「望む」は国民で31.5%となっている。

老年精神医の「望む」は33.2%で、国民(31.5%)と大きな差はみられない。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.019、自由度2であった

救急医の「望む」は24.7%で、国民(31.5%)よりやや少なくなっている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった

「望む」は老年精神医(33.2%)が救急医(24.7%)より多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.003、自由度2であった。

問7-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

エ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から管を入れて流動食を入れること(経鼻栄養)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	128	13.3	60	22.4	58	22.7
望まない	604	62.5	180	67.2	173	67.8
わからない	191	19.8	24	9.0	20	7.8
無回答	43	4.5	4	1.5	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から管を入れて流動食を入れること』を「望む」は国民で13.3%となっている。

老年精神医の「望む」は22.4%で、国民(13.3%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.002、自由度2であった

救急医の「望む」は22.7%で、国民(13.3%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった

「望む」は老年精神医(22.4%)と救急医(22.7%)にほとんど差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.901、自由度2であった。

問7-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

オ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、手術で胃に穴を開けて直接管を取り付け、流動食を入れること(胃ろう)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	80	8.3	54	20.1	48	18.8
望まない	659	68.2	178	66.4	186	72.9
わからない	184	19.0	31	11.6	17	6.7
無回答	43	4.5	5	1.9	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、手術で胃に穴を開けて直接管を取り付け、流動食を入れること』を「望む」は国民で8.3%、「望まない」は68.2%となっている。

老年精神医の「望む」は20.1%で、国民(8.3%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望む」は18.8%で、国民(8.3%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望む」は老年精神医(20.1%)と救急医(18.8%)にほとんど差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.115、自由度2であった。

問7-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

カ 呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること(言葉を発声できなくなります)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	85	8.8	29	10.8	32	12.5
望まない	649	67.2	206	76.9	203	79.6
わからない	189	19.6	28	10.4	15	5.9
無回答	43	4.5	5	1.9	5	2.0

どのような治療を希望するかについて、『呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること』を「望む」は国民で8.8%、「望まない」は67.2%となっている。

老年精神医の「望まない」は76.9%で、国民(67.2%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.001、自由度2であった。

救急医の「望まない」は79.6%で、国民(67.2%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(76.9%)と救急医(79.6%)に大きな差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.152、自由度2であった。

問7-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

キ 心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置(心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	142	14.7	23	8.6	13	5.1
望まない	663	68.6	222	82.8	228	89.4
わからない	123	12.7	18	6.7	10	3.9
無回答	38	3.9	5	1.9	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置』を「望む」は国民で14.7%、「望まない」は68.6%となっている。

老年精神医の「望まない」は82.8%で、国民(68.6%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望まない」は89.4%で、国民(68.6%)を大きく上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(8.6%)と、救急医の(5.1%)に大きな差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.088、自由度2であった。

問8. もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような治療を希望しますか。

—あなたのご病状—

認知症が進行して悪化し、自分の居場所や家族の顔が分からず、食事や着替え、トイレなど身の回りのことに手助けが必要な状態にまで衰弱が進んでいます。

—医師の見解—

「回復の見込みはなく、徐々に悪化して肺炎などで死に至る」とのことです。

お考えに近いものを選んでください。

問8-1. どこで治療を受けたいですか。(○は1つ)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
病院	331	34.3	28	10.4	25	9.8
介護施設	503	52.1	183	68.3	176	69.0
在宅	104	10.8	53	19.8	49	19.2
無回答	28	2.9	4	1.5	5	2.0

以下のような病状になった場合、どのような治療を希望するかについて、まずは、どこで治療を受けたいかをきいたところ、国民では「介護施設」52.1%、「病院」34.3%、「在宅」10.8%の順となっている。

老年精神医では「介護施設」68.3%、「在宅」19.8%、「病院」10.4%の順で、順位・割合ともに国民とは差がみられる。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医では「介護施設」69.0%、「在宅」19.2%、「病院」9.8%の順となっており、順位・割合ともに国民とは差がみられる。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

また老年精神医と救急医の間では、順位・割合ともにほとんど差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.960、自由度2であった。

問8-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)
 ア 肺炎にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	386	40.0	175	65.3	77	30.2
望まない	408	42.2	72	26.9	160	62.7
わからない	133	13.8	18	6.7	15	5.9
無回答	39	4.0	3	1.1	3	1.2

どのような治療を希望するかについて、『肺炎にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること』を「望む」は国民で40.0%となっている。

老年精神医の「望む」は65.3%で、国民(40.0%)を大きく上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった

救急医の「望む」は30.2%で、国民(40.0%)をより少なくなっている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった

「望む」は老年精神医(65.3%)が救急医(30.2%)よりかなり多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

問8-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)
 イ 口から十分な水分をとれなくなった場合の点滴

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	428	44.3	147	54.9	71	27.8
望まない	379	39.2	94	35.1	170	66.7
わからない	115	11.9	24	9.0	11	4.3
無回答	44	4.6	3	1.1	3	1.2

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な水分をとれなくなった場合の点滴』を「望む」は国民で44.3%となっている。

老年精神医の「望む」は54.9%で、国民(44.3%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.028、自由度2であった。

救急医の「望む」は27.8%で、国民(44.3%)より少なくなっている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望む」は老年精神医(54.9%)が救急医(27.8%)よりかなり多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

問8-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

ウ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、太い血管に針で管を刺して栄養剤を入れること(中心静脈栄養)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	200	20.7	37	13.8	22	8.6
望まない	566	58.6	200	74.6	221	86.7
わからない	153	15.8	29	10.8	9	3.5
無回答	47	4.9	2	0.7	3	1.2

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、太い血管に針で管を刺して栄養剤を入れること』を「望む」は国民で20.7%、「望まない」は58.6%となっている。

老年精神医の「望まない」は74.6%で、国民(58.6%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望まない」は86.7%で、国民(58.6%)を大きく上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(74.6%)より救急医(86.7%)に多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.001、自由度2であった。

問8-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

エ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から管を入れて流動食を入れること(経鼻栄養)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	100	10.4	35	13.1	24	9.4
望まない	675	69.9	205	76.5	215	84.3
わからない	144	14.9	25	9.3	13	5.1
無回答	47	4.9	3	1.1	3	1.2

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から管を入れて流動食を入れること』を「望む」は国民で10.4%、「望まない」は69.9%となっている。

老年精神医の「望まない」は76.5%で、国民(69.9%)がやや上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.030、自由度2であった。

救急医の「望まない」は84.3%で、国民(69.9%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(76.5%)より救急医(84.3%)にやや多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.056、自由度2であった。

問8-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

オ 口から十分な栄養をとれなくなった場合、手術で胃に穴を開けて直接管を取り付け、流動食を入れること(胃ろう)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	52	5.4	33	12.3	20	7.8
望まない	723	74.8	208	77.6	221	86.7
わからない	144	14.9	23	8.6	11	4.3
無回答	47	4.9	4	1.5	3	1.2

どのような治療を希望するかについて、『口から十分な栄養をとれなくなった場合、手術で胃に穴を開けて直接管を取り付け、流動食を入れること』を「望む」は国民で5.4%、「望まない」は74.8%となっている。

老年精神医の「望む」は12.3%で、国民(5.4%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった

救急医の「望む」は7.8%で国民(5.4%)とほとんど差はみられないが、「望まない」は86.7%で国民(74.8%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった

「望む」は老年精神医(12.3%)が救急医(7.8%)よりやや多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.023、自由度2であった。

問8-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

カ 呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること(言葉を発声できなくなります)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	59	6.1	17	6.3	11	4.3
望まない	704	72.9	230	85.8	233	91.4
わからない	155	16.0	18	6.7	7	2.7
無回答	48	5.0	3	1.1	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること』を「望む」は国民で6.1%、「望まない」は72.9%となっている。

老年精神医の「望まない」は85.8%で、国民(72.9%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望まない」は91.4%で、国民(72.9%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(85.8%)より救急医(91.4%)にやや多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.056、自由度2であった。

問8-2. 下記ア～キの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

キ 心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置(心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	102	10.6	14	5.2	6	2.4
望まない	717	74.2	237	88.4	240	94.1
わからない	105	10.9	14	5.2	5	2.0
無回答	42	4.3	3	1.1	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置』を「望む」は国民で10.6%、「望まない」は74.2%となっている。

老年精神医の「望まない」は88.4%で、国民(74.2%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望まない」は94.1%で、国民(74.2%)を大きく上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(88.4%)より救急医(94.1%)にやや多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.029、自由度2であった。

問9. もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような治療を希望しますか。

—あなたのご病状—

交通事故で強く頭を打ち、既に半年間以上意識がなく、管から栄養をとっている状態ですが、衰弱が進んでいます。

—医師の見解—

「回復の見込みはほぼなく、いずれ肺炎などで死に至る」とのことです。

お考えに近いものを選んでください。

問9-1. どこで治療を受けたいですか。(○は1つ)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
病院	718	74.3	145	54.1	98	38.4
介護施設	120	12.4	77	28.7	108	42.4
在宅	89	9.2	40	14.9	41	16.1
無回答	39	4.0	6	2.2	8	3.1

以下のような病状になった場合、どのような治療を希望するかについて、まずは、どこで治療を受けたいかをきいたところ、国民では「病院」74.3%が断然多く、「介護施設」12.4%、「在宅」9.2%の順となっている。

老年精神医では「病院」54.1%、「介護施設」28.7%、「在宅」14.9%の順で、国民とは差がみられる。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医では「介護施設」42.4%、「病院」38.4%、「在宅」16.1%の順となっており、順位・割合ともに国民とは差がみられる。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

老年精神医と救急医では、順位・割合ともに差がみられる。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.001、自由度2であった。

問9-2. 下記ア～ウの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)
 ア 肺炎にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	267	27.6	115	42.9	68	26.7
望まない	553	57.2	136	50.7	177	69.4
わからない	104	10.8	16	6.0	5	2.0
無回答	42	4.3	1	0.4	5	2.0

どのような治療を希望するかについて、『肺炎にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること』を「望む」は国民で27.6%、「望まない」は57.2%となっている。

老年精神医の「望む」は42.9%で、国民(27.6%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった

救急医の「望む」は26.7%で国民(27.6%)とほとんど差はみられないが、「望まない」は69.4%で国民(57.2%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった

「望む」は老年精神医(42.9%)が救急医(26.7%)より多くなっている。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

問9-2. 下記ア～ウの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)
 イ 呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること(言葉を発声できなくなります)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	85	8.8	21	7.8	26	10.2
望まない	717	74.2	234	87.3	219	85.9
わからない	115	11.9	11	4.1	6	2.4
無回答	49	5.1	2	0.7	4	1.6

どのような治療を希望するかについて、『呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること』を「望む」は国民で8.8%、「望まない」は74.2%となっている。

老年精神医の「望まない」は87.3%で、国民(74.2%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望まない」は85.9%で、国民(74.2%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(87.3%)と救急医(85.9%)にほとんど差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.356、自由度2であった。

問9-2. 下記ア～ウの治療を望みますか。(それぞれ○は1つ)

ウ 心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置(心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと)

	国民		老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
望む	92	9.5	12	4.5	13	5.1
望まない	734	76.0	244	91.0	234	91.8
わからない	90	9.3	10	3.7	3	1.2
無回答	50	5.2	2	0.7	5	2.0

どのような治療を希望するかについて、『心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置』を「望む」は国民で9.5%、「望まない」は76.0%となっている。

老年精神医の「望まない」は91.0%で、国民(76.0%)を上回っている。国民と老年精神医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

救急医の「望まない」は91.8%で、国民(76.0%)を上回っている。国民と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

「望まない」は老年精神医(91.0%)と救急医(91.8%)にほとんど差はみられない。老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.172、自由度2であった。

2.2. 日本老年精神医学会専門医、日本救急医学会指導医の回答結果

問1. あなたの担当される患者でお亡くなりになる方はおよそ何名くらいですか。(○は1つ)

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
1ヶ月に1名以上	53	19.8	192	75.3
半年に1名程度	102	38.1	34	13.3
1年に1名程度	65	24.3	4	1.6
亡くなることはまずない	43	16.0	15	5.9
無回答	5	1.9	10	3.9

老年精神医と救急医に担当する患者の死亡する人数をきいたところ、老年精神医では「半年に1名程度」(38.1%)が約4割で最も多く、救急医では「1ヶ月に1名以上」(75.3%)が4人に3人の割合を占めている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度3であった。

問2. あなたの勤務している病棟や施設では、死が間近い患者の治療方針について、医師や看護・介護職員等の関係者が集まって十分な話し合いが行われていますか。(○は1つ)

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
十分行われている	53	19.8	65	25.5
一応行われている	120	44.8	128	50.2
ほとんど行われていない	36	13.4	48	18.8
死が間近い患者に関っていない	53	19.8	9	3.5
無回答	6	2.2	5	2.0

死が間近い患者の治療方針について、医師や看護・介護職員等の関係者が集まって十分な話し合いが行われているかどうかについては、「十分行われている」は老年精神医で19.8%、救急医で25.5%、「一応行われている」は老年精神医で44.8%、救急医で50.2%となっており、救急医での割合が高くなっている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度3であった。

問3. 死が間近い患者の治療方針について、医師や看護・介護職員等の間に意見の相違がおこったことがありますか。(〇は1つ)

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
ある	80	29.9	134	52.5
ない	123	45.9	100	39.2
死が間近い患者に関っていない	59	22.0	16	6.3
無回答	6	2.2	5	2.0

死が間近い患者の治療方針について、医師や看護・介護職員等の間に意見の相違がおこったことがあるかどうかについては、「ある」は老年精神医で29.9%、救急医で52.5%で半数を超えており、救急医での割合が高くなっている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度2であった。

問4. 患者(利用者)が亡くなった後、家族の悲しみに対して施設として対応する体制は整備されていますか。(〇は1つ)

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
はい	58	21.6	54	21.2
いいえ	148	55.2	156	61.2
わからない	55	20.5	40	15.7
無回答	7	2.6	5	2.0

患者(利用者)が亡くなった後、家族の悲しみに対して施設として対応する体制が整備されているかどうかについては、「はい」は老年精神医で21.6%、救急医で21.2%と、両者にほとんど差はみられない。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.288、自由度2であった。

問5. 一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、以下ア～ケの臨床的状态はどれだけ重要だと考えますか。(それぞれ○は一つ)

ア 反復性誤嚥性肺炎

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
極めて重要である	145	54.1	112	43.9
中程度に重要である	72	26.9	98	38.4
さほど重要でない	27	10.1	16	6.3
全く重要ではない	6	2.2	13	5.1
分からない	11	4.1	10	3.9
無回答	7	2.6	6	2.4
重要である(計)	217	81.0	210	82.4
重要ではない(計)	33	12.3	29	11.4

一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、『反復性誤嚥性肺炎』の臨床的状态はどれだけ重要かをきいたところ、「極めて重要である」は老年精神医で54.1%と半数を超えて、救急医の43.9%より多くなっている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.010、自由度4であった。

問5. 一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、以下ア～ケの臨床的状态はどれだけ重要だと考えますか。(それぞれ○は一つ)

イ ベッドサイドで行う嚥下評価で誤嚥の危険性がある

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
極めて重要である	42	15.7	46	18.0
中程度に重要である	127	47.4	131	51.4
さほど重要でない	55	20.5	46	18.0
全く重要ではない	14	5.2	12	4.7
分からない	21	7.8	14	5.5
無回答	9	3.4	6	2.4
重要である(計)	169	63.1	177	69.4
重要ではない(計)	69	25.7	58	22.7

次に、『ベッドサイドで行う嚥下評価で誤嚥の危険性がある』の臨床的状态はどれだけ重要かをきいたところ、「極めて重要である」は老年精神医で15.7%、救急医で18.0%、両者にはほとんど差はみられない。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.662、自由度4であった。

問5. 一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、以下ア～ケの臨床的状态はどれだけ重要だと考えますか。(それぞれ○は一つ)

ウ レントゲン線透視検査で誤嚥の危険性がある

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
極めて重要である	21	7.8	41	16.1
中程度に重要である	99	36.9	106	41.6
さほど重要でない	76	28.4	65	25.5
全く重要ではない	19	7.1	18	7.1
分からない	42	15.7	19	7.5
無回答	11	4.1	6	2.4
重要である(計)	120	44.8	147	57.6
重要ではない(計)	95	35.4	83	32.5

『レントゲン線透視検査で誤嚥の危険性がある』の臨床的状态はどれだけ重要かをきいたところ、「極めて重要である」は老年精神医で7.8%、救急医で16.1%と、救急医に多くなっている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.003、自由度4であった。

問5. 一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、以下ア～ケの臨床的状态はどれだけ重要だと考えますか。(それぞれ○は一つ)

エ 口褥瘡の発生

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
極めて重要である	25	9.3	19	7.5
中程度に重要である	80	29.9	83	32.5
さほど重要でない	71	26.5	97	38.0
全く重要ではない	16	6.0	21	8.2
分からない	67	25.0	28	11.0
無回答	9	3.4	7	2.7
重要である(計)	105	39.2	102	40.0
重要ではない(計)	87	32.5	118	46.3

『口褥瘡の発生』の臨床的状态はどれだけ重要かをきいたところ、「極めて重要である」は老年精神医で9.3%、救急医で7.5%とほとんど差はみられないが、「さほど重要でない」は老年精神医の26.5%より救急医の38.0%が多くなっている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.000、自由度4であった。

問5. 一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、以下ア～ケの臨床的状态はどれだけ重要だと考えますか。(それぞれ○は一つ)

オ 6ヶ月に10%以上の体重減少

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
極めて重要である	25	9.3	15	5.9
中程度に重要である	83	31.0	85	33.3
さほど重要でない	102	38.1	96	37.6
全く重要ではない	24	9.0	34	13.3
分からない	26	9.7	18	7.1
無回答	8	3.0	7	2.7
重要である(計)	108	40.3	100	39.2
重要ではない(計)	126	47.0	130	51.0

『6ヶ月に10%以上の体重減少』の臨床的状态はどれだけ重要かをきいたところ、「極めて重要である」は老年精神医で9.3%、救急医で5.9%と、両者にあまり差はみられない。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.231、自由度4であった。

問5. 一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、以下ア～ケの臨床的状态はどれだけ重要だと考えますか。(それぞれ○は一つ)

カ 低い血清アルブミン値

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
極めて重要である	25	9.3	15	5.9
中程度に重要である	98	36.6	72	28.2
さほど重要でない	99	36.9	103	40.4
全く重要ではない	25	9.3	43	16.9
分からない	13	4.9	15	5.9
無回答	8	3.0	7	2.7
重要である(計)	123	45.9	87	34.1
重要ではない(計)	124	46.3	146	57.3

『低い血清アルブミン値』の臨床的状态はどれだけ重要かをきいたところ、「極めて重要である」は老年精神医で9.3%、救急医で5.9%とあまり差はみられないが、「中程度に重要である」を加えた『重要である(計)』は老年精神医の45.9%が、救急医の34.1%より多くなっている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.025、自由度4であった。

問5. 一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、以下ア～ケの臨床的状态はどれだけ重要だと考えますか。(それぞれ○は一つ)
 キ 飢餓によって苦しんで死ぬことを防ぐため

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
極めて重要である	48	17.9	24	9.4
中程度に重要である	94	35.1	82	32.2
さほど重要でない	67	25.0	77	30.2
全く重要ではない	24	9.0	45	17.6
分からない	25	9.3	21	8.2
無回答	10	3.7	6	2.4
重要である(計)	142	53.0	106	41.6
重要ではない(計)	91	34.0	122	47.8

『飢餓によって苦しんで死ぬことを防ぐため』の臨床的状态はどれだけ重要かをきいたところ、「極めて重要である」は老年精神医の17.9%が、救急医の9.4%より多くなっている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.003、自由度4であった。

問5. 一般的に認知症末期の患者に胃ろうの適応を検討するにあたり、以下ア～ケの臨床的状态はどれだけ重要だと考えますか。(それぞれ○は一つ)
 ク 脱水によって苦しんで死ぬことを防ぐため

	老年精神		救急	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
極めて重要である	43	16.0	25	9.8
中程度に重要である	93	34.7	85	33.3
さほど重要でない	75	28.0	71	27.8
全く重要ではない	26	9.7	49	19.2
分からない	22	8.2	19	7.5
無回答	9	3.4	6	2.4
重要である(計)	136	50.7	110	43.1
重要ではない(計)	101	37.7	120	47.1

『脱水によって苦しんで死ぬことを防ぐため』の臨床的状态はどれだけ重要かをきいたところ、「極めて重要である」は老年精神医の16.0%が、救急医の9.8%より多くなっている。

老年精神医と救急医の間の検定はP値=0.015、自由度4であった。